

調査レポート

グラフで見る東海経済 (2013年11月)

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直しが一服している。生産は、自動車や金属工作機械が増加したが、全体では横ばい圏で推移している。輸出は海外景気の回復を背景に持ち直しが続いている。公共投資は国の発注を中心に増加が続き、住宅投資も持ち直している一方、企業の設備投資は伸び悩んでいる。個人消費は、所得環境の改善を背景に緩やかに持ち直しているが、株価が一時的に調整したこともあり、消費者マインドが悪化している。

今後は、輸出の緩やかな持ち直しが続くが、自動車の生産は年末にかけていったん水準を低下させる見込みである。一方、冬のボーナスが5年ぶりに増加し、年明け以降は消費増税前の駆け込み需要も顕在化してくるだろう。1月以降は自動車が増産される計画であり、景気は再び持ち直しの動きを強めるだろう。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↗		↗
個人消費	↗		↗	輸入	→		→
住宅投資	↗		→	生産	→		→
設備投資	→		→	雇用	↗		→
公共投資	↗		→	賃金	↗		↗

(注)1.3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2.シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中および東南アジアの景気先行き、米FRBの金融政策、中国人民銀行の金融政策
- ・企業活動～設備投資の企業規模や業種における広がり、消費増税前の駆け込み需要、米中向け輸出
- ・家計～雇用・所得環境、食品・エネルギー等の物価上昇、株価水準が消費に与える影響、冬のボーナス商戦

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目19-30

TEL:052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	10月のコメント	11月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	3~4
2. 生産	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	5~7
3. 雇用	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している	7~8
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10~11
6. 住宅投資	持ち直している	持ち直している	12
7. 設備投資	増加が一服している	増加が一服している	12~13
8. 公共投資	増加基調で推移	増加基調で推移	13
9. 輸出入	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	14~15
10. 物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は増加、負債総額は減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

3. 雇用

2013年7~9月期の東海4県の就業者数は前年差10万人の増加となった。完全失業率は3.1%と全国(4.0%)と比べて低水準で推移している。9月の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県と三重県が7ヶ月連続、岐阜県が3ヶ月ぶりに改善した。

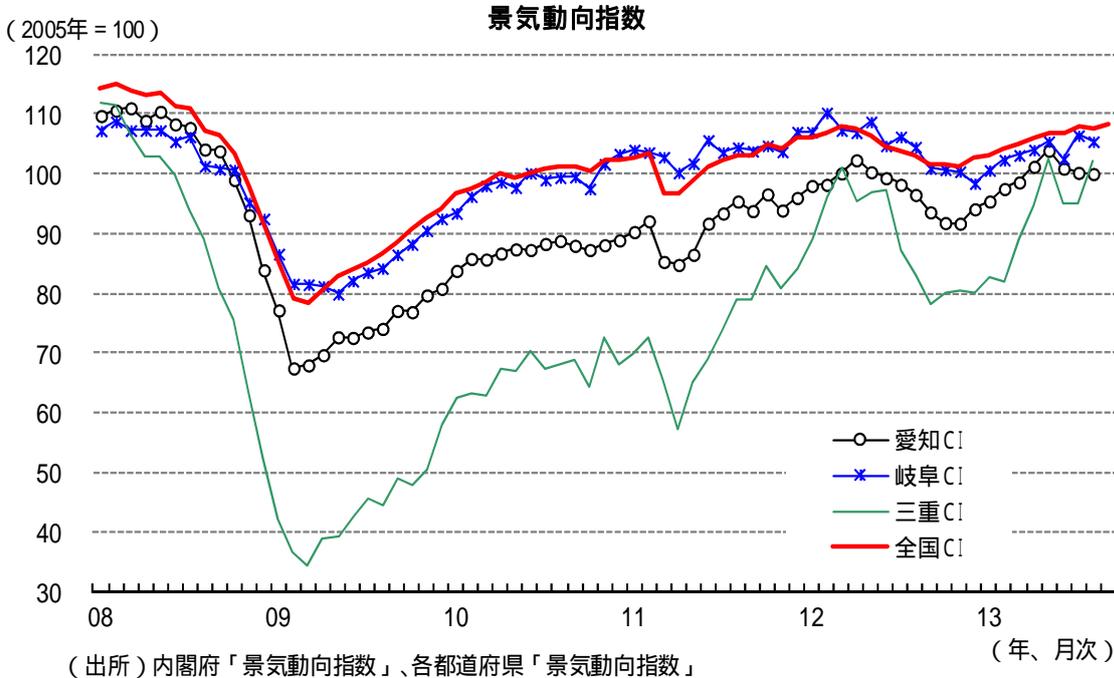
【主要経済指標の推移】

経済指標		12 7-9	12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 5	13 6	13 7	13 8	13 9	13 10
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	96.1	92.5	97.2	102.0		103.9	100.9	100.2	100.0		
	岐阜（C I、一致指数）	103.9	99.8	102.0	104.0		105.4	102.5	106.4	105.4		
	三重（C I、一致指数）	82.8	80.2	84.5	97.4		102.5	95.1	95.1	102.1		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	42.1	39.6	52.8	54.5	52.3	54.5	51.9	52.4	51.5	53.0	52.6
	（先行判断DI）	42.2	44.8	55.4	55.4	53.7	56.4	52.7	53.2	52.0	56.0	53.9
	短観業況判断DI（大企業製造業）	5	-17	-3	7	17	<12月予想>					
（中小企業製造業）	-5	-15	-22	-11	-3	<12月予想>						
（非製造業）	-5	-6	-2	2	9	<12月予想>						
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.4	0.4	0.5	1.1								
非製造業(兆円)	0.3	0.2	0.2	0.2								
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-5.2	-2.0	4.5	1.7	0.8	1.8	-7.3	3.7	2.4	0.6	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-5.3	-3.3	5.3	3.5	0.5	1.8	-5.0	3.4	-0.3	0.7	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	3.0	0.4	-4.1	-1.1	0.9	0.4	2.7	-1.9	0.4	1.9	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-6.9	-6.3	10.7	0.1	-3.1	1.3	-8.7	1.4	0.7	2.1	
	一般機械（ " ）	-6.1	-3.0	-4.5	5.7	-0.3	4.6	-6.7	1.7	-0.3	4.0	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	-15.6	31.0	3.1	6.9	3.8	-2.3	-8.6	6.8	6.2	-0.1	
	プラスチック製品工業（ " ）	-5.4	-2.0	2.8	0.5	-0.2	2.6	-3.6	2.3	-4.1	5.9	
	化学（ " ）	-1.1	-1.6	9.6	-2.8	-3.4	-6.4	-4.6	7.9	-7.2	-1.9	
	電気機械（ " ）	-3.7	-3.8	4.3	-2.1	5.6	4.0	-0.9	5.5	-2.2	2.4	
	鉄鋼（ " ）	-5.7	-7.1	6.5	3.5	-3.5	2.2	-2.2	-6.3	4.5	2.1	
金属工作機械受注 総受注(億円)	332.4	286.6	290.0	322.5	352.2	338.3	360.5	327.6	370.6	358.5		
国内受注(億円)	96.9	79.0	80.4	93.8	113.2	85.0	110.4	100.3	101.4	138.0		
海外受注(億円)	235.5	207.6	209.6	228.7	239.0	253.3	250.1	227.3	269.2	220.4		
大口販売電力量	-1.0	-4.2	-6.3	-1.7	0.2	-0.1	-1.2	0.7	-1.2	0.9	4.7	
完全失業率(原数値、%)	3.2	3.3	3.4	3.5	3.1							
就業者数(原数値、万人)	768	768	762	773	778							
雇用	常用雇用指数 愛知	100.0	100.4	99.4	100.1		99.9	100.3	100.4	100.1		
	岐阜	99.6	99.5	98.7	99.0		99.1	98.9	99.1	98.7		
	三重	98.8	98.8	96.8	97.8		97.8	97.9	98.9	99.2		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.15	1.1	1.16	1.3	1.36	1.30	1.33	1.35	1.36	1.38	
	岐阜(季節調整値、倍)	0.99	0.9	0.98	1.1	1.10	1.07	1.09	1.09	1.09	1.12	
	三重(季節調整値、倍)	0.90	0.8	0.89	1.0	1.08	1.02	1.04	1.05	1.09	1.10	
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.66	1.7	1.85	2.0	2.08	1.92	2.10	2.11	1.99	2.13		
岐阜(季節調整値、倍)	1.40	1.4	1.50	1.7	1.66	1.63	1.69	1.60	1.66	1.72		
三重(季節調整値、倍)	1.32	1.3	1.39	1.6	1.64	1.62	1.58	1.58	1.72	1.63		
賃金	現金給与総額	-1.4	-1.6	-0.5	1.2		0.1	1.9	1.6	0.5		
	所定内給与	-1.3	-1.3	-0.1	0.8		0.3	1.0	0.3	0.6		
	所定外給与	2.0	-5.5	-4.0	-0.4		-1.0	2.0	1.9	1.3		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	-5.2	1.3	5.7	6.6	1.8	1.5	10.6	-1.1	-0.3	8.6	
定期収入	-4.4	-4.2	3.5	-0.4	2.9	-0.8	-2.7	-3.0	3.1	9.1		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	1.8	-5.9	11.8	2.7	3.1	-2.5	6.6	-2.8	9.8	2.8	
	百貨店販売額(名古屋市内)	0.8	0.6	3.6	7.8	4.0	9.9	10.5	-0.1	9.5	4.5	1.5
	百貨店+スーパー販売額(名古屋市内百貨店除く)	-2.0	0.0	-2.4	1.1	3.2	0.0	3.2	3.7	2.6	3.3	
	コンビニエンスストア販売額	-0.7	-1.5	-1.4	0.3	0.3	0.2	1.9	0.7	0.4	-0.2	
	新車登録台数(含む軽)	14.7	-4.2	-10.4	-9.0		-8.9	-17.4	-8.9	-2.2	22.8	
	家電販売額	-15.0	-5.8				-2.0	14.3	-10.9	4.7	-2.3	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	39.3	38.0	43.7	46.3	45.0	47.0	46.4	45.2	44.1	45.6	41.4
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	28.5	24.6	29.2	29.5	27.5	30.0	27.3	27.8	26.3	28.4	26.0	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	103.0	106.1	105.7	115.1	123.0	112.1	122.6	120.5	121.6	127.0	
	(前年比、%)	-10.2	16.7	8.4	18.1	19.7	8.6	32.6	21.4	13.1	25.6	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	11.2	0.9	12.3	10.1							
	(非製造業)	1.9	-15.6	17.9	-7.0							
企業立地件数	-	-	-			18	17	17				
公共投資	公共工事請負額	8.5	15.4	-4.5	6.5	26.7	27.5	-8.9	45.8	15.2	21.0	6.1
輸出入	実質輸出(季節調整済、07/12=100)	85.1	80.8	82.5	87.4	86.9	86.7	88.7	83.2	89.6	88.0	90.0
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-0.3	0.2	6.7	10.9	15.7	11.1	11.1	13.5	14.3	19.4	23.5
	実質輸入(季節調整済、07/12=100)	107.5	93.1	95.2	97.3	98.0	100.8	94.0	95.3	97.2	101.6	92.0
	通関輸入(金額ベース、円建て)	2.1	-0.9	5.7	6.7	10.3	9.5	2.3	8.9	8.7	13.2	23.7
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	0.1	0.0	-0.3	-0.1	0.6	-0.2	0.2	0.4	0.7	0.6	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	-0.4	-0.4	-0.7	-0.3	0.0	-0.3	-0.2	-0.1	0.1	0.1	
金融	国内銀行預金残高	2.1	1.9	1.6	2.0	2.4	2.2	2.1	2.3	2.8	2.1	
	国内銀行貸出残高	0.0	-0.1	0.3	1.5	2.1	1.9	1.8	1.7	2.1	2.5	
倒産	倒産件数	22.2	-20.3	-8.9	-12.5	-13.3	-17.7	-7.4	23.4	-33.7	-29.0	58.5

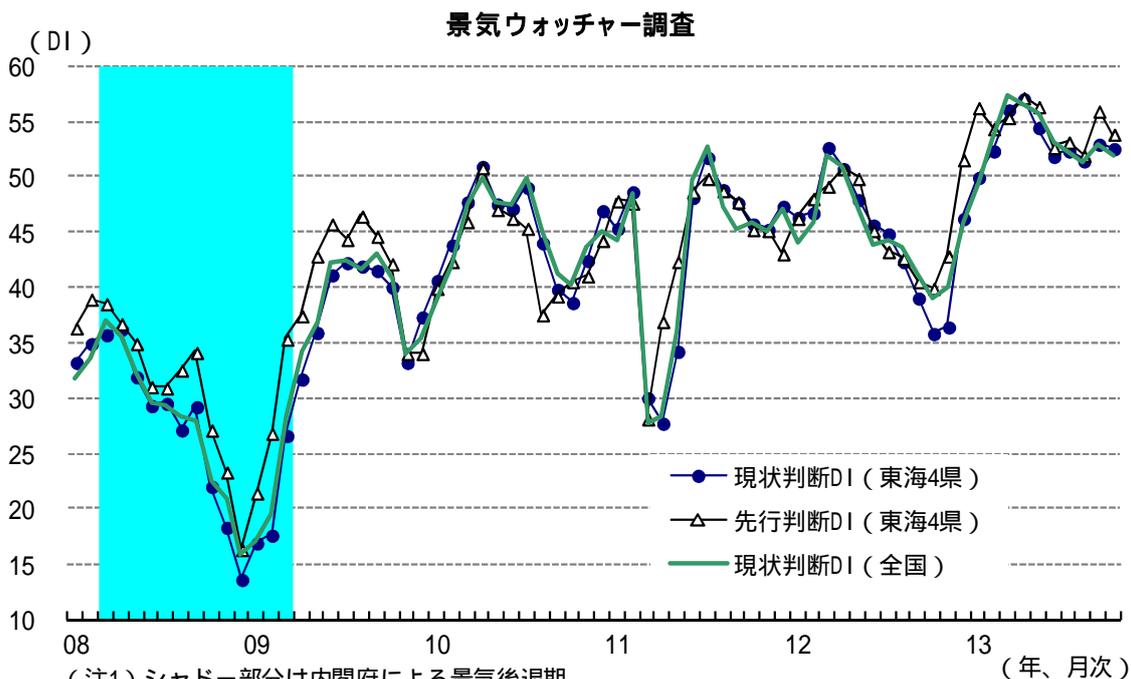
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 持ち直しが一服している

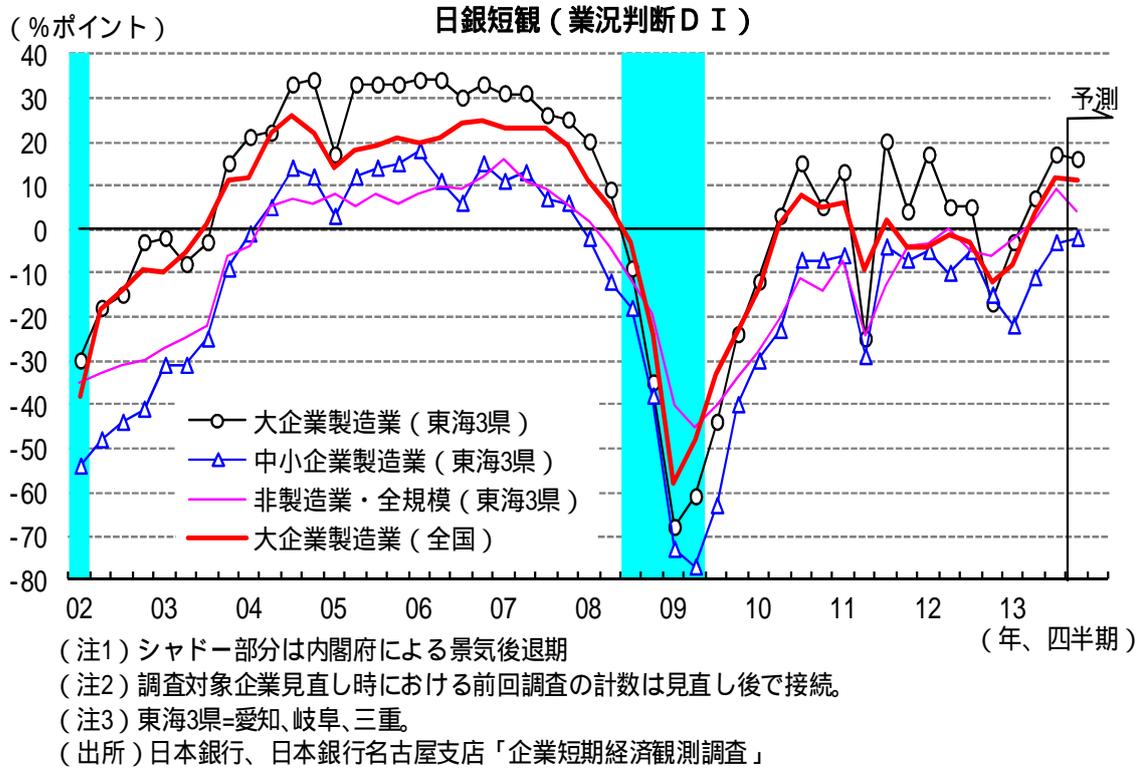
8月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち4系列でマイナス寄与となり、前月差 - 0.2ポイントと3ヶ月連続の低下となった。岐阜県も同 - 1.0ポイントと2ヶ月ぶりに低下したが、三重県は2ヶ月連続で上昇した。先行指数は、愛知県、三重県で上昇、岐阜県で低下した。



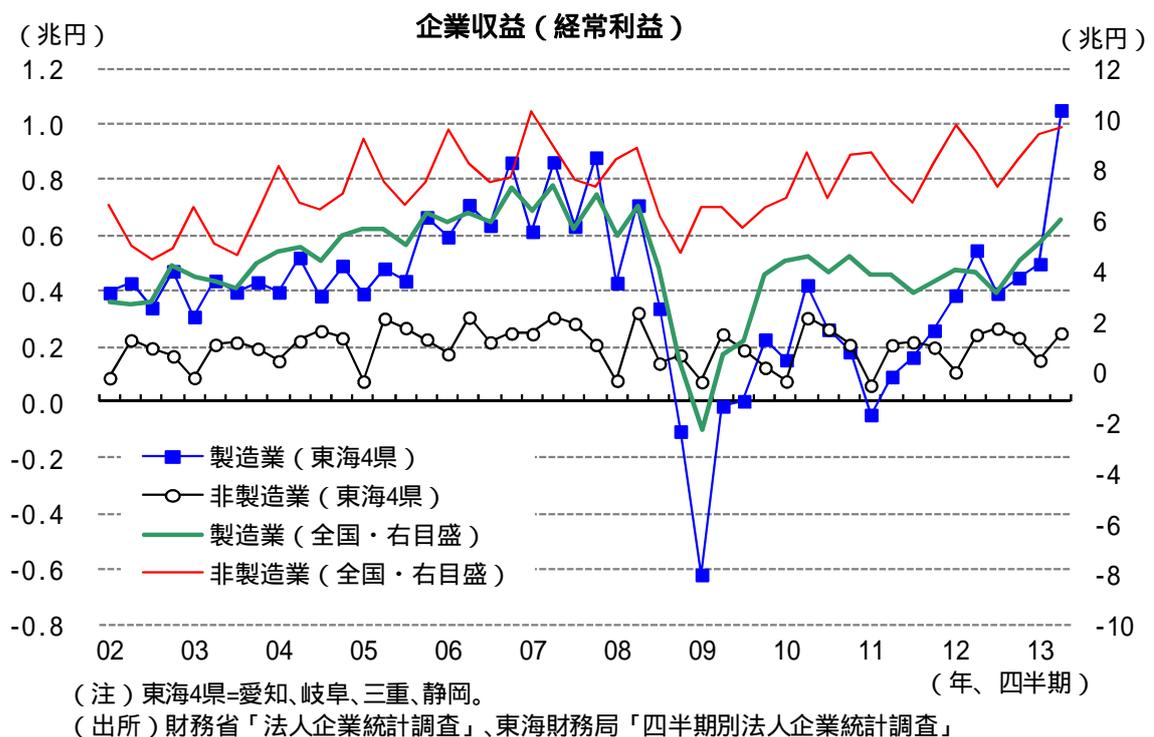
10月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIは前月差 - 0.4ポイントと2ヶ月ぶりに低下したが、比較的高い水準で推移している。家計動向関連の現状判断DIは前月と比べて横ばいだった。東海4県の先行判断DIは同 - 2.1ポイントと2ヶ月ぶりに低下し、先行きに対する期待感は薄れている。



日銀短観9月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+17と、前回6月調査から10ポイント改善した。中小企業製造業も-3と前回調査から7ポイント改善した。業況判断D Iの12月予測は、大企業製造業は+16と1ポイントの悪化、中小製造業が-2と1ポイントの改善が見込まれている。

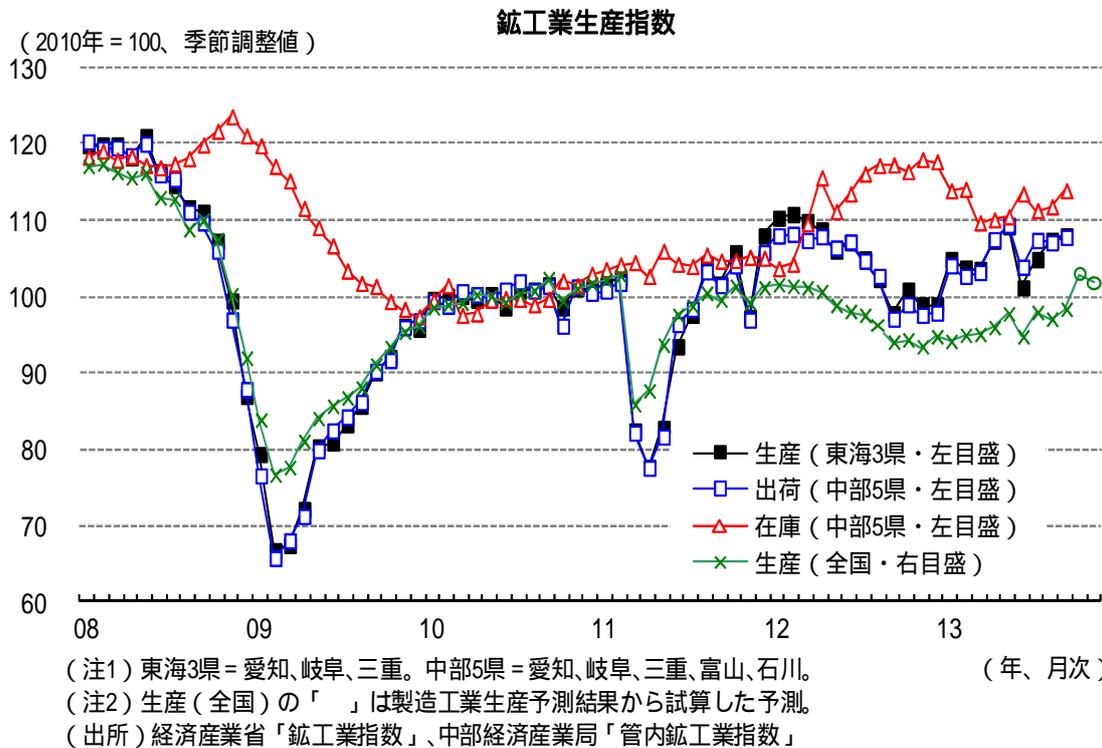


2013年4～6月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は大幅な増益となり、リーマンショック前のピーク（07年10～12月期）の水準を上回った。円安・株高に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したことが影響している。ただし、トヨタの生産（季調済）が13年4月をピークに減少しており、収益への影響が懸念される。非製造業は前年同期比でほぼ横ばいとなっている。

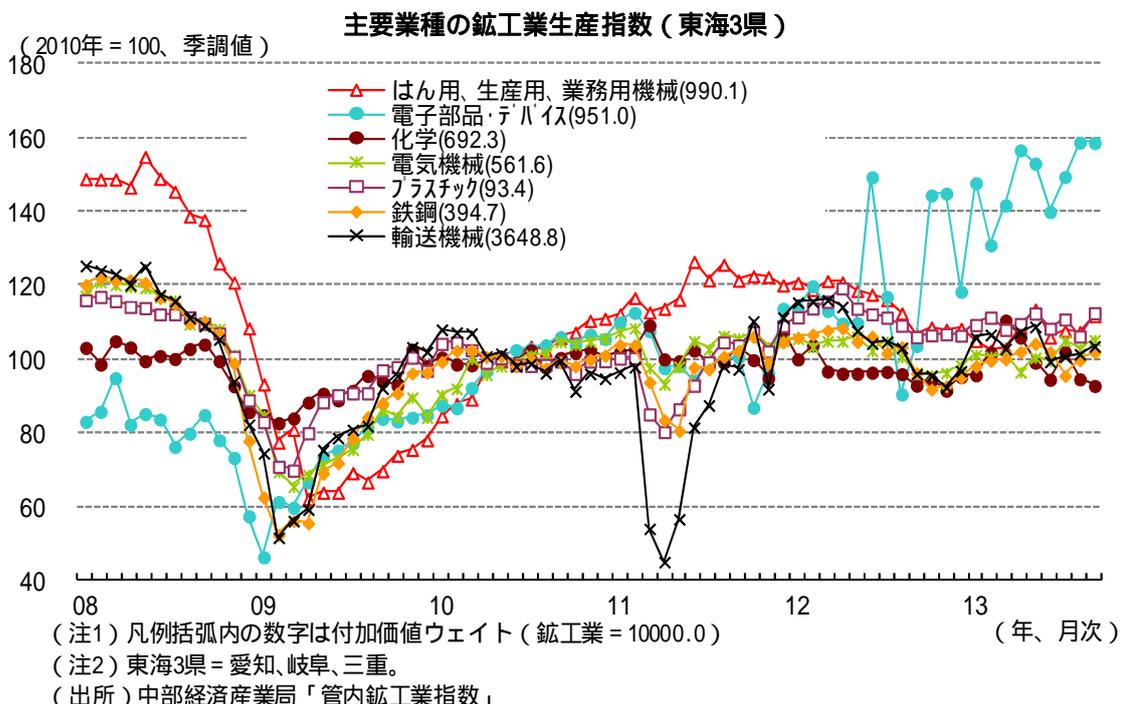


2. 生産 ~ 横ばい圏で推移

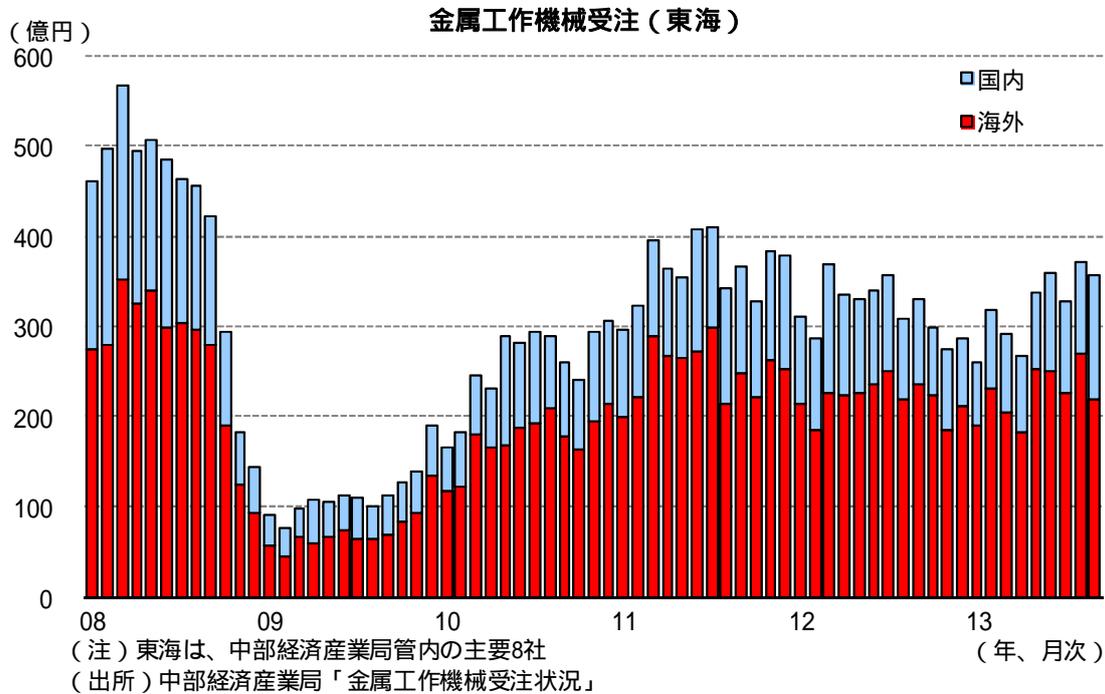
9月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比+0.6%と小幅ながら3ヶ月連続で上昇した。輸送用機械が増加したほか、はん用・生産用・業務用機械、プラスチック製品などが増加した。先行きは、米国向け輸出が底堅く推移するとみられる一方、季節調整をかけたトヨタの国内生産計画は（P.11 下図参照）、年内は低水準で推移する見通しで、鉱工業生産全体では横ばい圏で推移する可能性が高い。



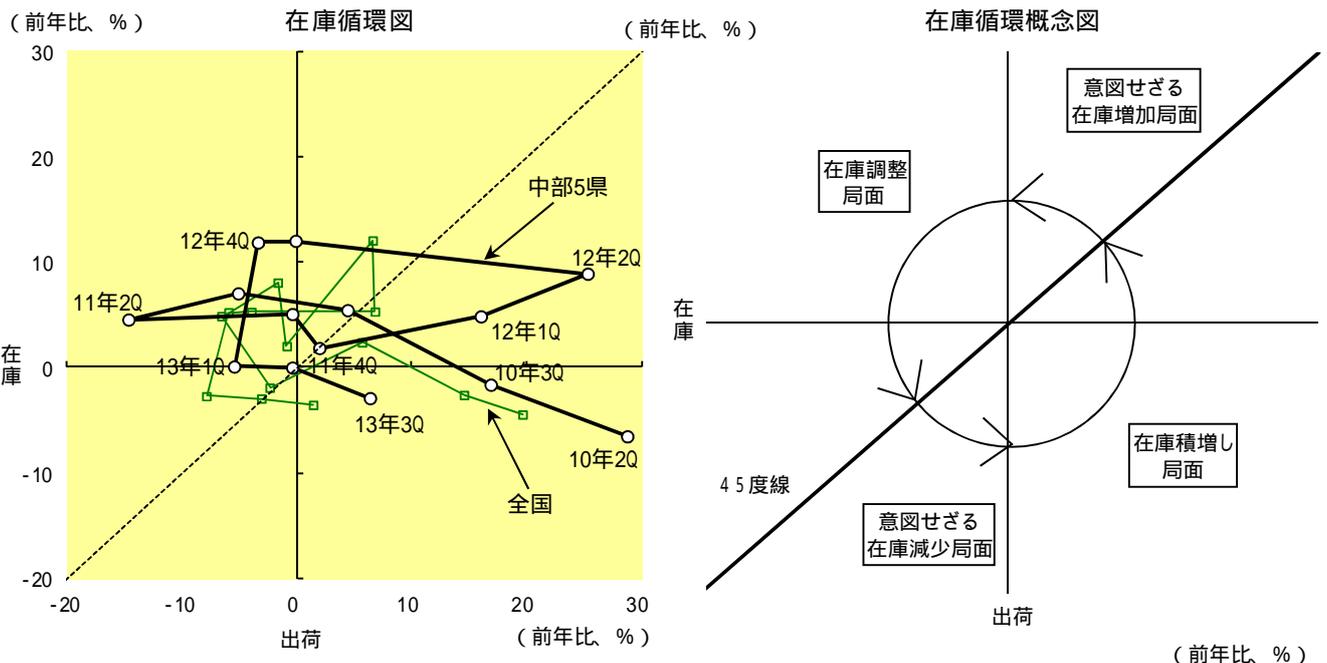
業種別にみると、自動車(前月比+9.8%)、自動車部品(同+0.9%)などを含む輸送機械(同+2.1%)が増加したほか、自動車向けも多いはん用・生産用・業務用機械(同+4.0%)、プラスチック製品(同+5.9%)、鉄鋼(同+2.1%)が増加した。電気機械(同+2.4%)も増加し、電子部品・デバイス(同-0.1%)は高水準でほぼ横ばいとなったが、化学(同-2.0%)は減少した。



9月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+8.6%と2ヶ月連続で増加した。国内受注は、自動車向けや一般機械向けを中心に同+48.1%と2ヶ月連続で増加した。一方、海外受注は、中国(同+66.1%)を含むアジア向け(同+25.9%)と欧州向け(同+14.4%)が増加したものの、米国向け(同-35.6%)が2ヶ月ぶりに減少し、全体では同-7.0%と2ヶ月ぶりに減少した。

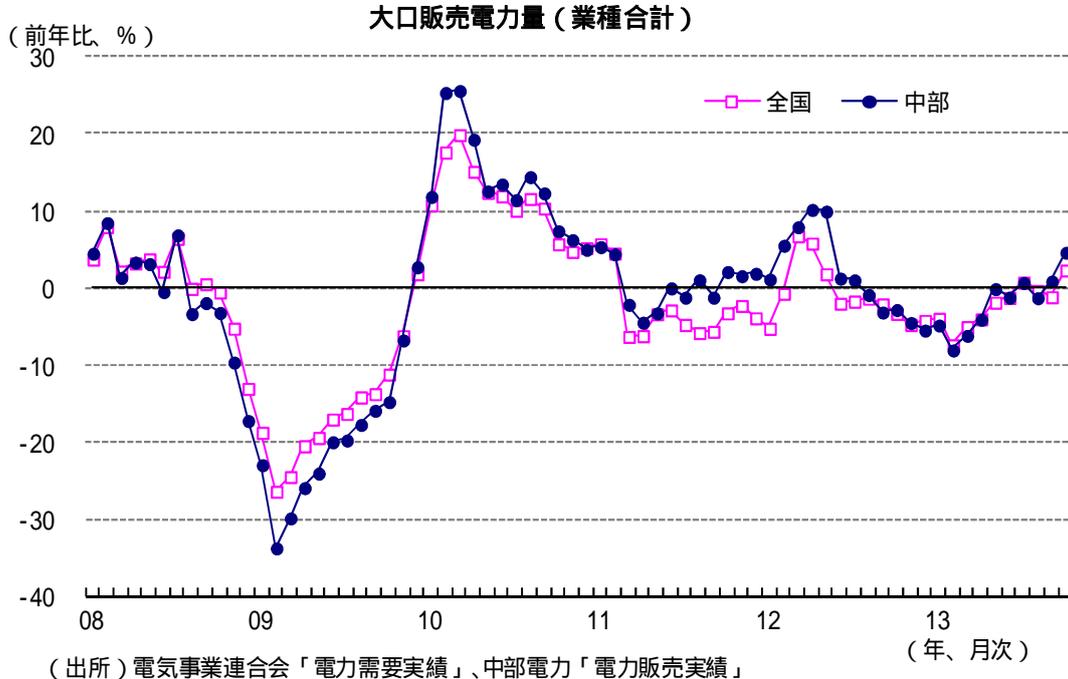


9月の中部5県の出荷は、自動車や自動車部品、金属製品、金属工作機械などで増加し、前月比+0.7%と2ヶ月ぶりに増加した。在庫は、主力の輸送機械で減少したが、需要の弱さを背景に電子部品・デバイスや情報通信機械などで増加し、9月は同+1.9%となった。製造業全体では在庫調整圧力は薄らいであり、一部の業種では在庫水準がやや上昇している。



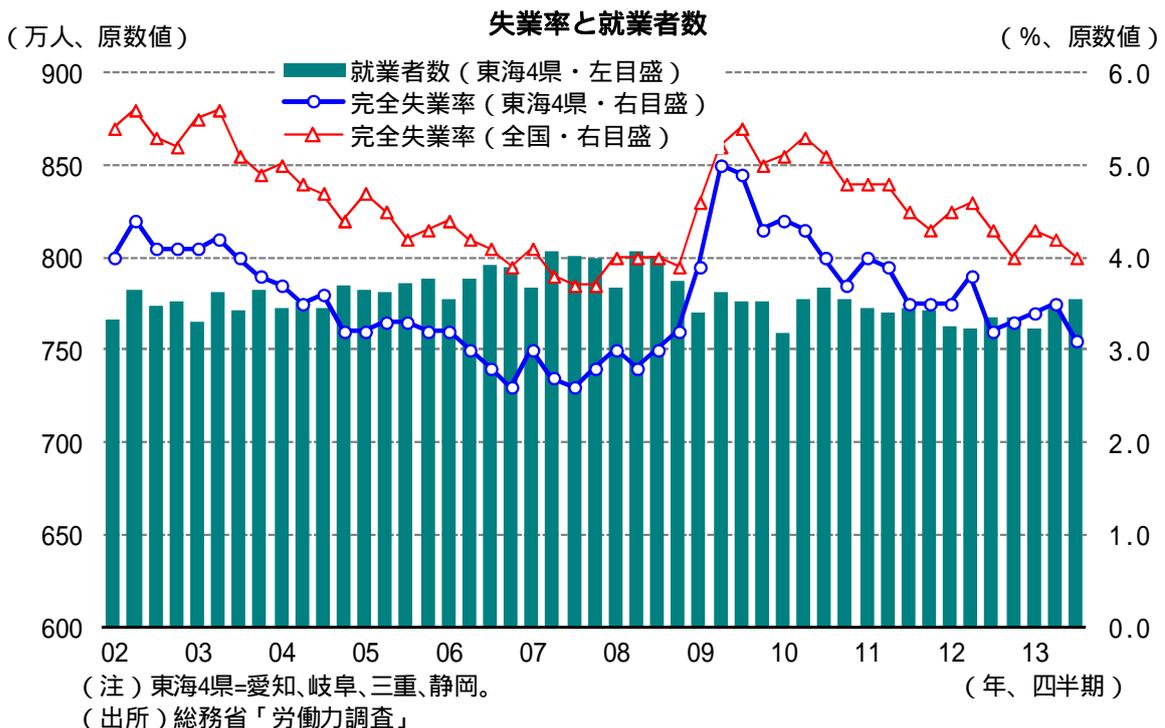
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(注2) 中部5県= 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
(注3) 直近13年3Qの出荷は7、8月平均、在庫は8月の前年比
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

10月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+4.7%と2ヶ月連続で増加した。自動車関連や鉄鋼、液晶・半導体などの生産増が寄与し、機械工業向けは同+7.9%と4ヶ月連続で増加した。鉄鋼業向けは、自動車向け鋼材や建築向け鋼材の生産増により同+7.9%と2ヶ月連続で増加した。一方で、窯業・土石向けは、自家発電の稼働強化により減少した。

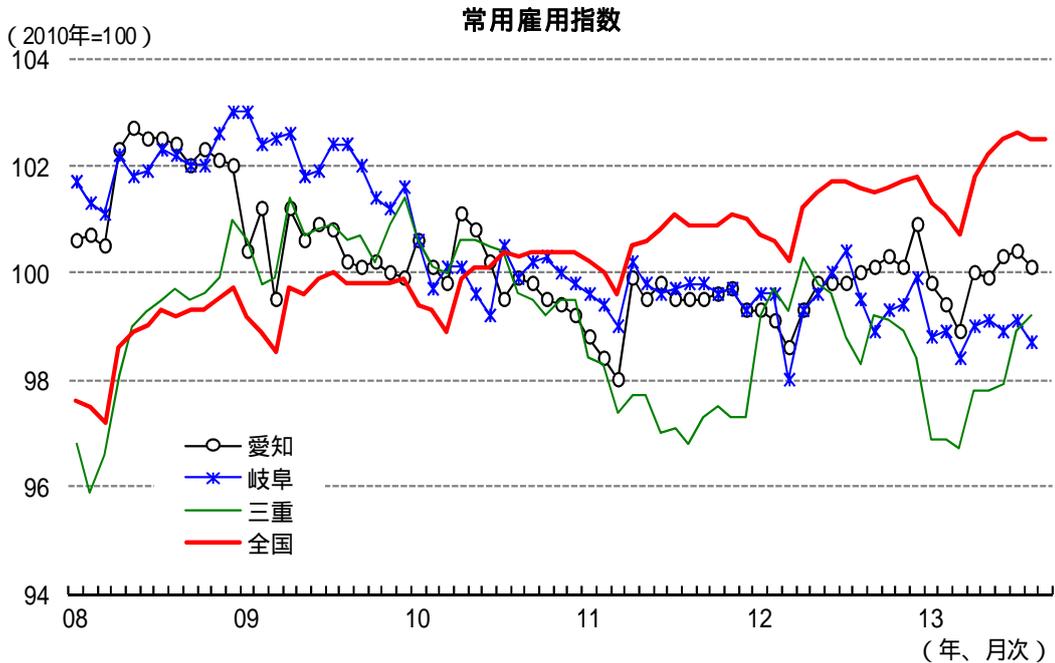


3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

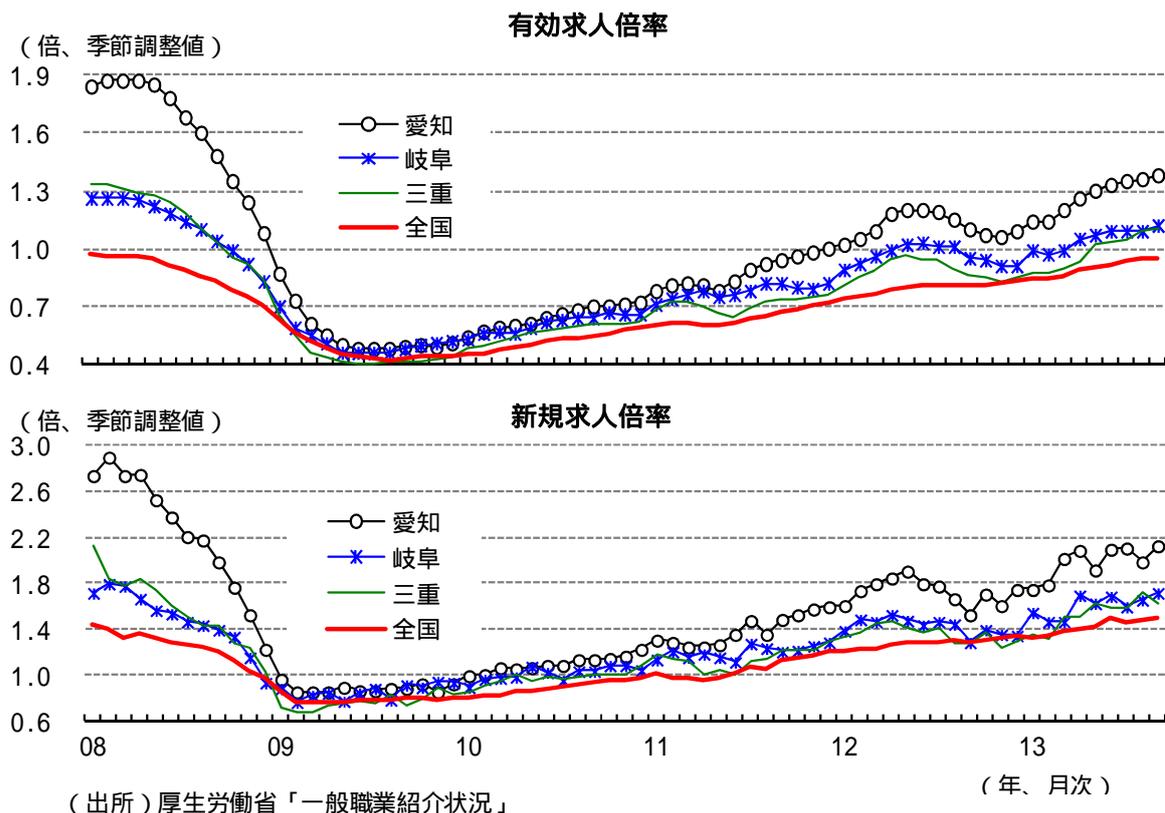
2013年7～9月期の東海4県の完全失業率は3.1%（前年差 - 0.1%ポイント）と全国（4.0%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差10万人の増加となった。常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いているが、有効求人倍率は、小幅ながらもじりじりと水準を切り上げている。



8月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県は前年比+0.1%と上昇したものの、全国(同+0.9%)に比べて弱い動きが続いている。岐阜県は同-0.8%と5ヶ月連続で低下しているが、式年遷宮などにより宿泊・飲食などの観光関連が好調な三重県は同+0.9%と2ヶ月連続で上昇した。

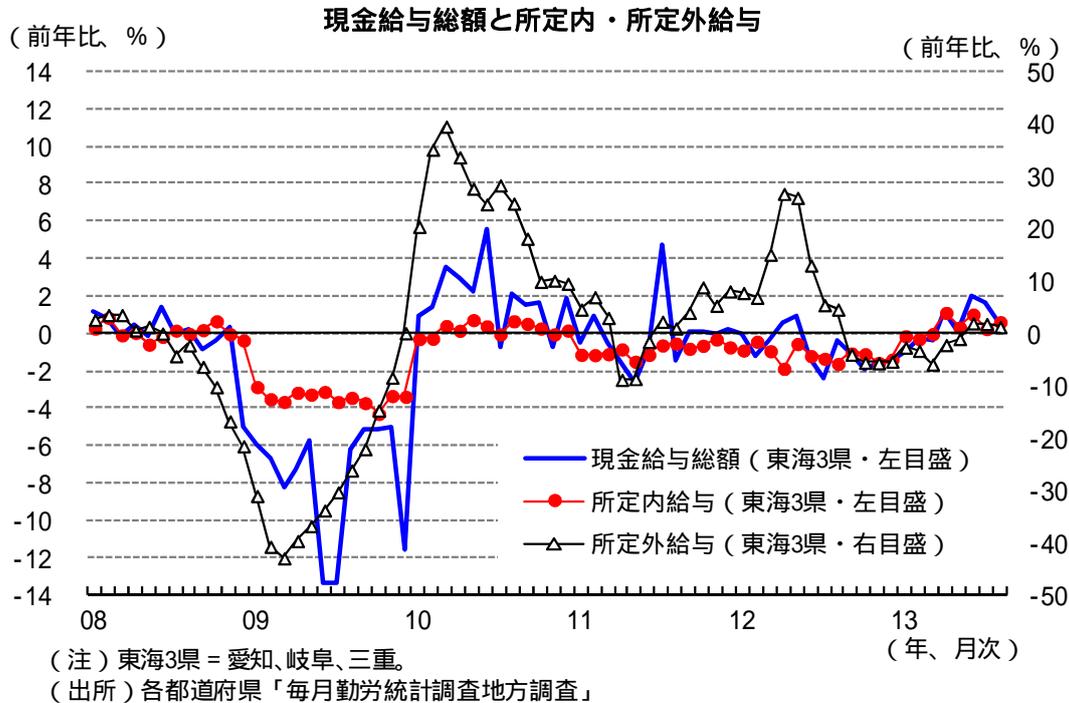


9月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が自動車など製造業を中心に7ヶ月連続で改善し1.38倍となった。三重県は1.10倍と7ヶ月連続、岐阜県は1.12倍と3ヶ月ぶりに改善した。新規求人倍率(同)は、愛知県が2.13倍と2ヶ月ぶりに改善、岐阜県が1.72倍と2ヶ月連続で改善し、三重県は1.63倍と2ヶ月ぶりの悪化となった。

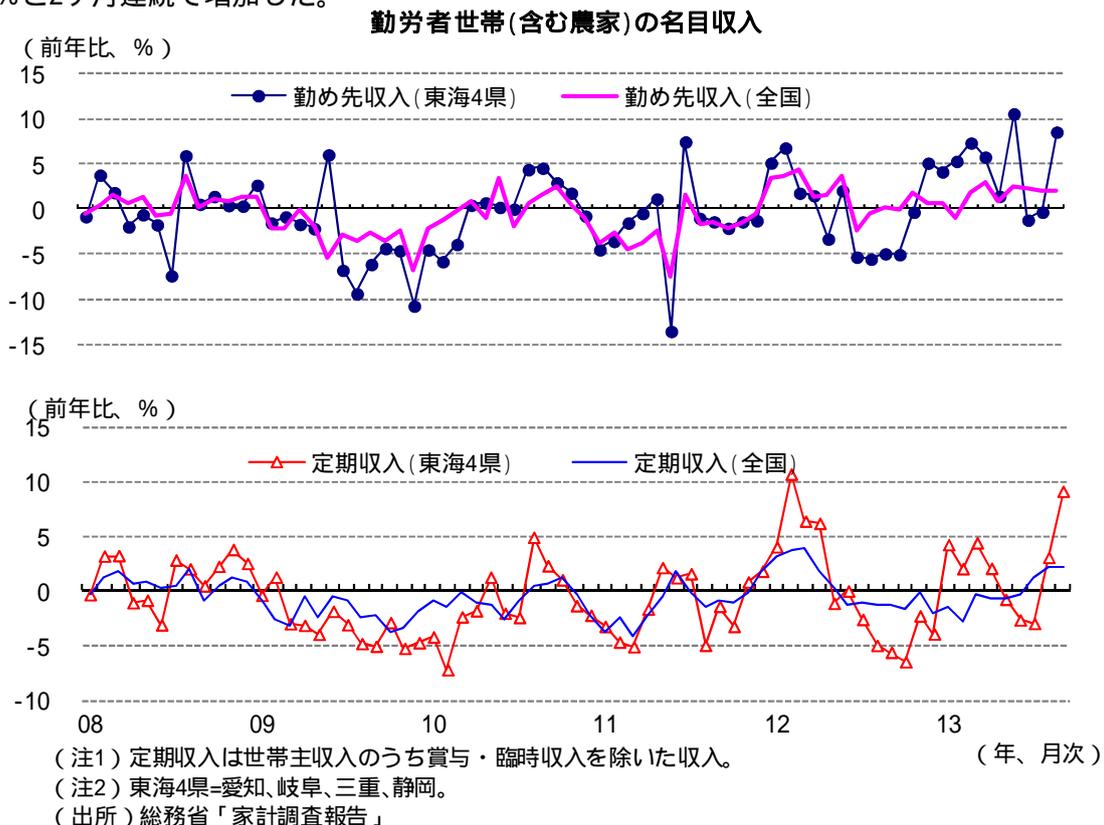


4. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している

8月の一人当たり現金給与総額は前年比+0.5%と増加し、5ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与は同+0.6%と5ヶ月連続で増加し、所定外給与も同+1.3%と3ヶ月連続で増加した。夏に続いて冬の賞与は増加する見通しだが、一方で企業の人件費抑制姿勢は依然として根強い。年内の製造業の生産も横ばい圏で推移する見通しであり、賃金は緩やかな持ち直しにとどまるだろう。

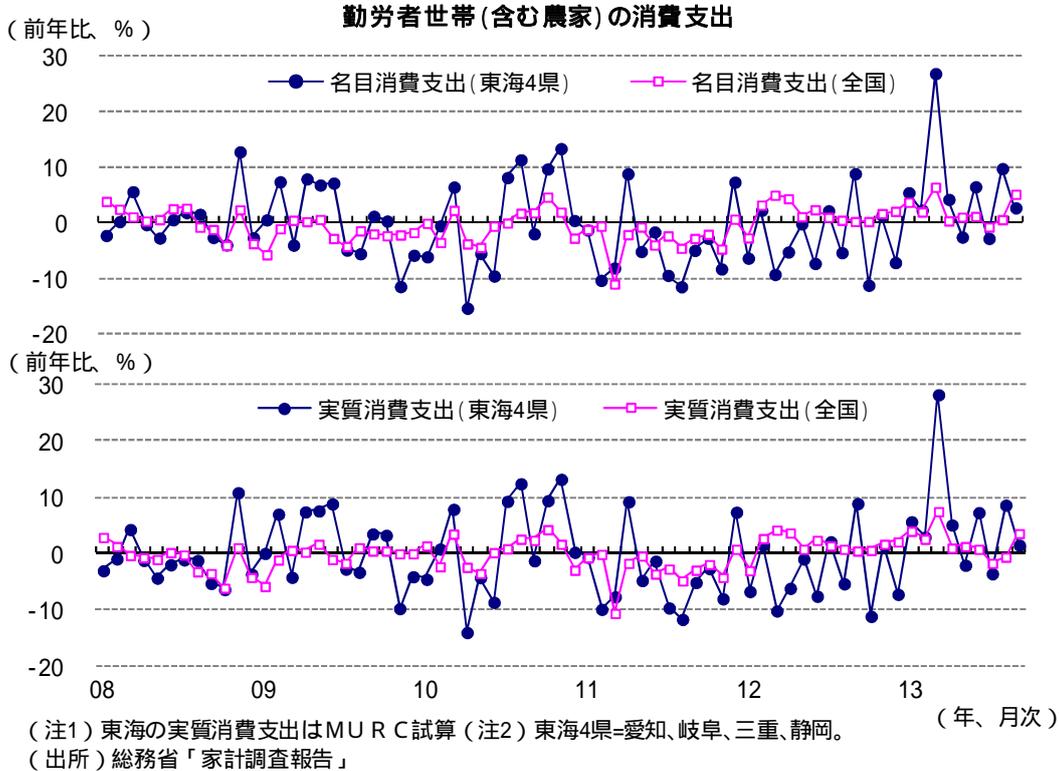


家計調査によると、9月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+8.6%と3ヶ月ぶりに増加した。9月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比+9.1%と2ヶ月連続で増加した。

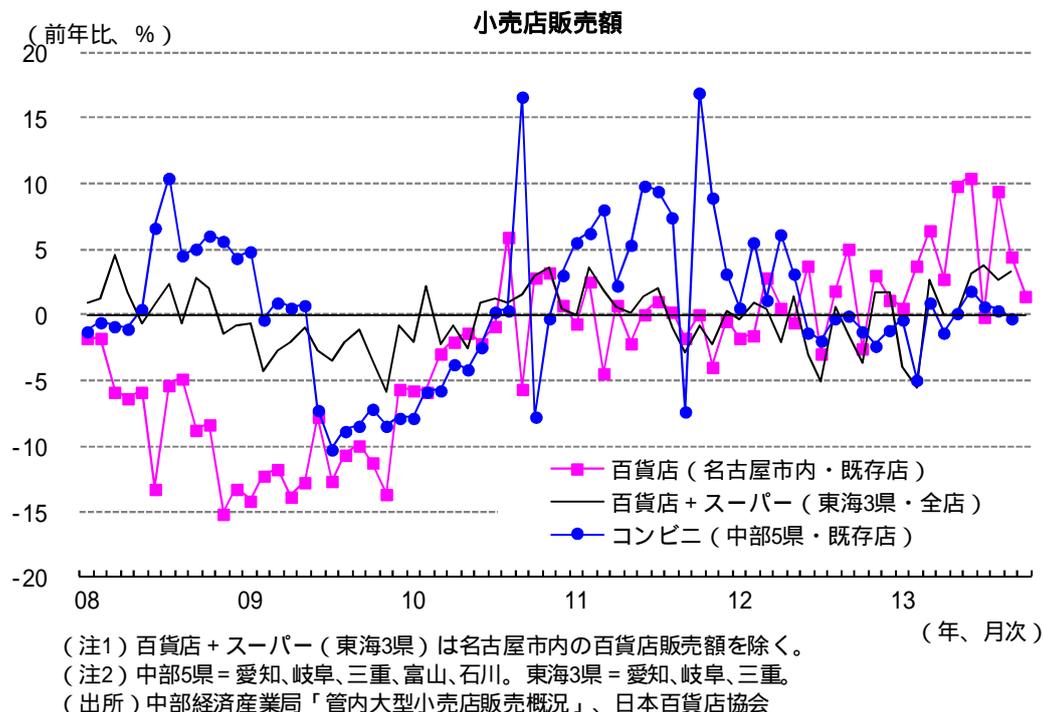


5. 個人消費 ~ 緩やかに持ち直している

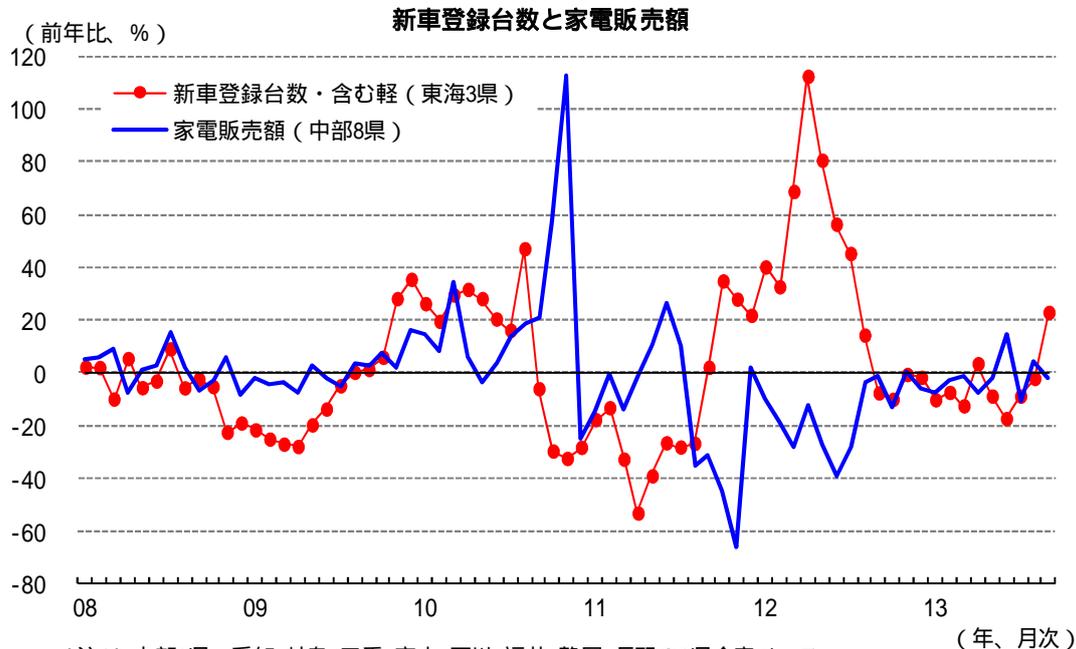
9月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+2.8%と2ヶ月連続で増加した。消費者マインドが比較的高い水準を維持する中で、9月までは高額消費や秋物衣料が堅調に推移した。先行きは、10月に消費者マインドが悪化したことから、好調だった高額消費に陰りが出てくる可能性もあり。冬のボーナス時期までは緩やかな持ち直しにとどまると見込まれる。



10月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比+1.5%と3ヶ月連続で増加したが、増加幅は縮小した。高級時計や宝飾品、海外ブランド品は堅調だが、10月は台風の影響で客足が鈍った上、気温が高めで推移したため秋物衣料が伸び悩んだ。9月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は同+3.5%と7ヶ月連続で増加し、中部5県のコンビニ販売額は同-0.2%と5ヶ月ぶりに減少した。



9月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比+22.8%と5ヶ月ぶりに増加した。前年同月のエコカー補助金終了の影響が薄れたことに加え、新車投入効果もあり、ハイブリッド車やコンパクトカーの販売が好調に推移している。一方、9月の中部8県の家電販売額は前年比-2.3%と2ヶ月ぶりに減少したが、不振が続いていたテレビ販売が徐々に底打ちしつつある。

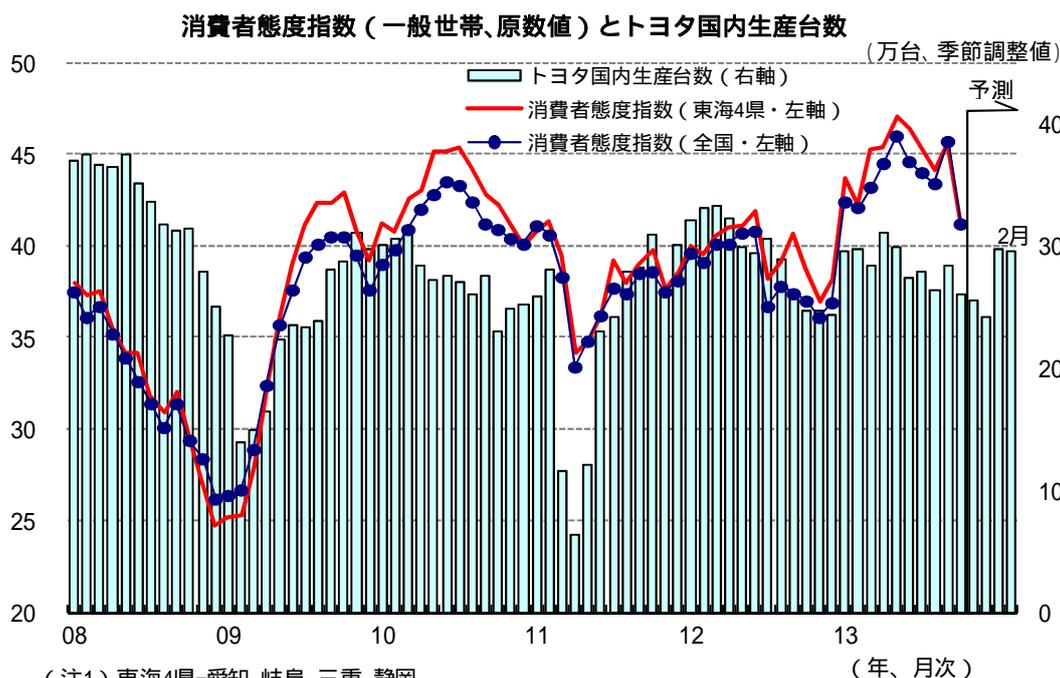


(注1) 中部8県=愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、静岡、長野の8県全店ベース。

(注2) 東海3県=愛知、岐阜、三重。

(出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、10月が前月比-4.2ポイントとなり2ヶ月ぶりに大きく低下した。9月は東京五輪開催決定の高揚感もあったが、10月に入って平均株価が伸び悩んだこともあり、東海の消費者マインドは悪化した。トヨタの国内生産台数も年内は低下傾向だが、年明け以降は水準を切り上げる見通しで、消費者マインドも改善する可能性が高い。



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

(注2) トヨタ国内生産台数はMURCにて季節調整。

(出所) 内閣府「消費動向調査」、トヨタ自動車生産「国内販売・輸出実績」
中部経済新聞「トヨタ生産計画」

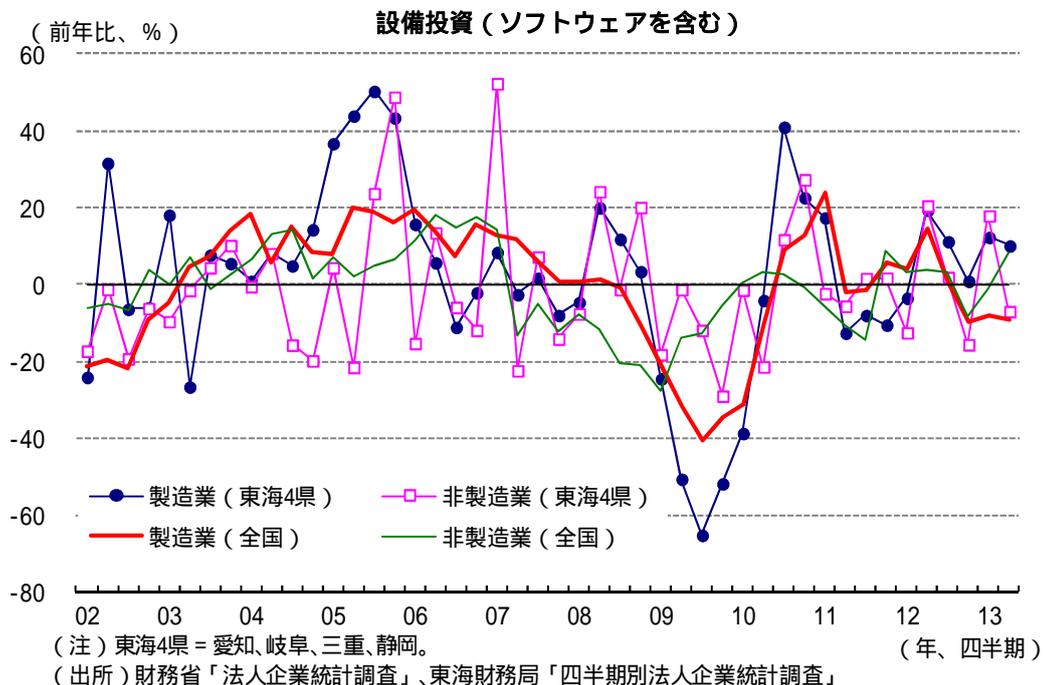
6. 住宅投資 ~ 持ち直している

9月の東海4県の住宅着工戸数は、前月比+4.4%と2ヶ月連続で増加した。前年比では+25.6%の10,081戸と大きく増加しており12ヶ月連続のプラスとなった。利用関係別の寄与度は、持家が+9.9%、貸家が+9.3%、分譲+6.1%といずれも増加に寄与している。9月末の契約ベースでの現行税率適用期限前の駆け込み需要が顕在化したとみられるが、今後は徐々に沈静化すると見込まれる。

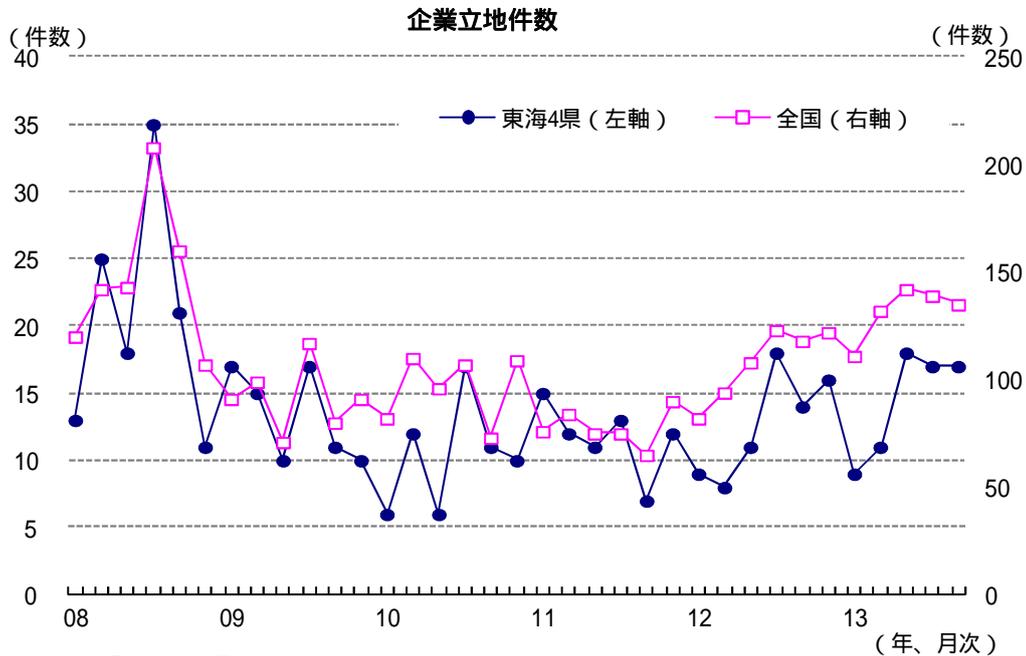


7. 設備投資 ~ 増加が一服している

2013年4~6月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+1.3%と2四半期連続で増加したものの、増加幅は前期1~3月期(+15.1%)から大きく縮小した。製造業の設備投資は前年比+10.1%と5四半期連続で増加したものの、非製造業は前年比-7.0%と減少した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。



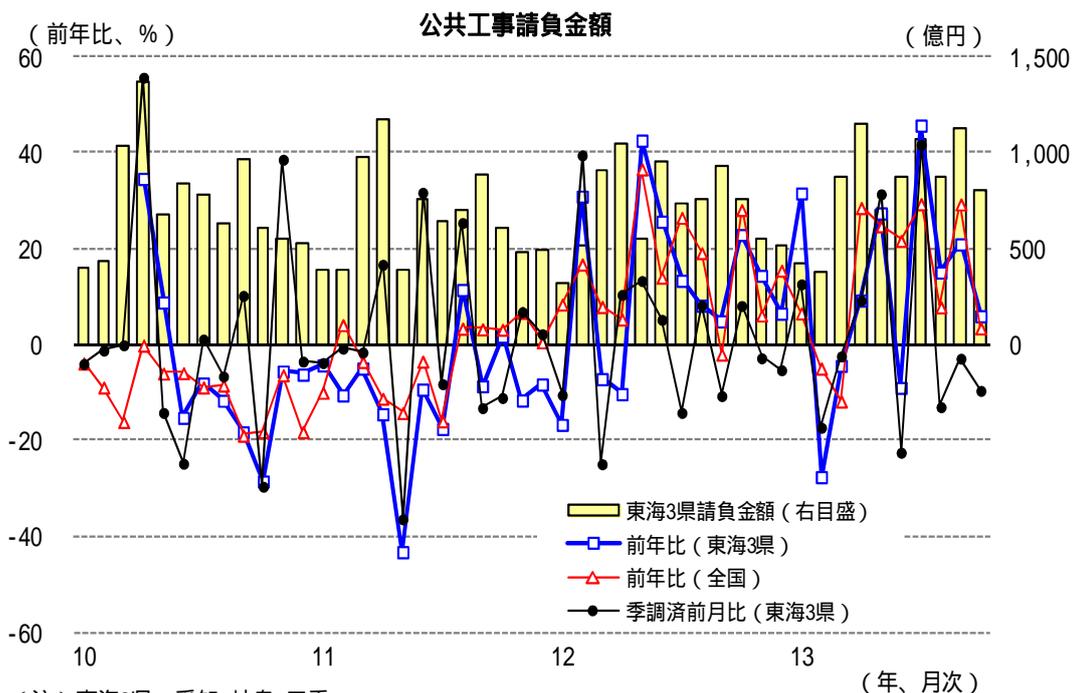
2013年8月・9月の東海4県の企業立地件数は17件と、前期(17件)から横ばいとなり、前年同期(14件)と比べて3件増加した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、足元では増加基調に転じてきている。



(注1) 発表は2ヶ月に1度。
 (注2) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 日本立地センター「産業立地」

8. 公共投資 ~ 増加基調で推移

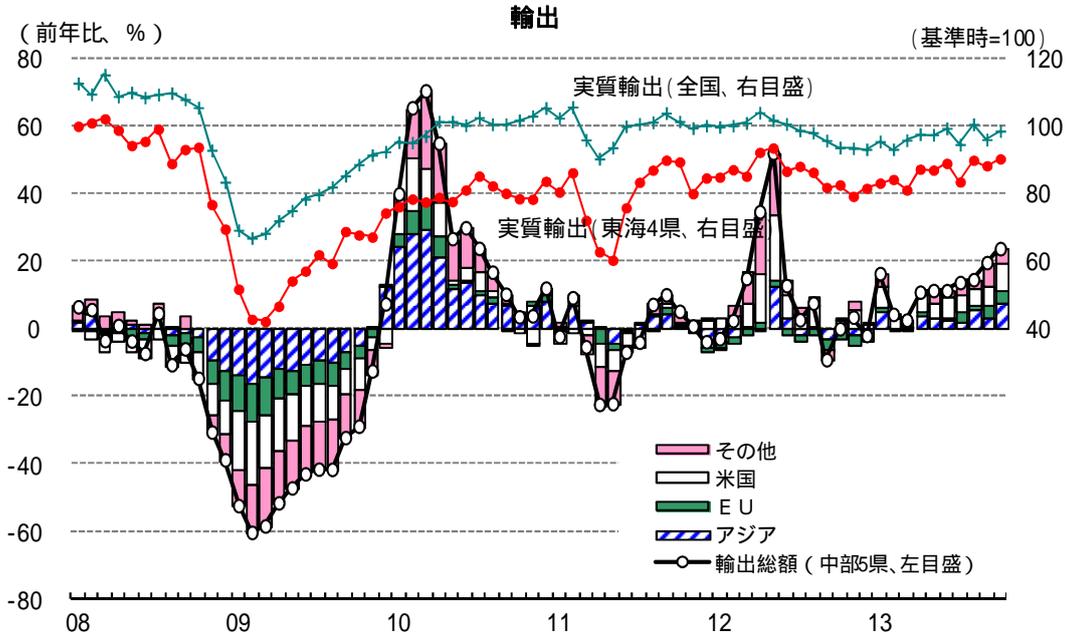
10月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 +6.1%の797億円と4ヶ月連続で前年を上回った。国の補正予算の執行に伴う緊急経済対策に係る工事が増加基調であり、発注者別では国が前年比 +24.6%と6ヶ月連続で増加し、地方も同2.2%と小幅ながら2ヶ月ぶりに増加した。季調済み前月比では -9.5%と3ヶ月連続で減少しており、国の補正予算による公共工事は請負ベースではピークを過ぎている。



(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)

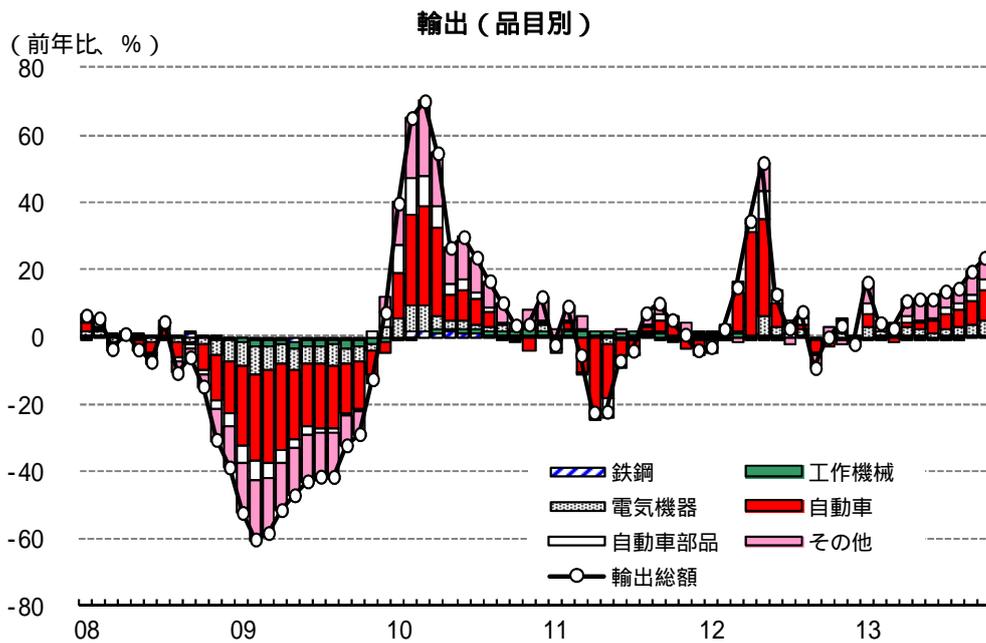
9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい

10月の実質輸出（季調済）は、前月比+2.3%と2ヶ月ぶりに増加した。10月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+23.5%と10ヶ月連続で増加した。米国向けが同+34.8%と13ヶ月連続、中国向け（同+39.4%）を含むアジア向けが同+18.7%と10ヶ月連続で増加し、EU向けも同+34.0%と7ヶ月連続で増加した。今後も、世界経済の回復とともに緩やかな持ち直しが続くと予想される。



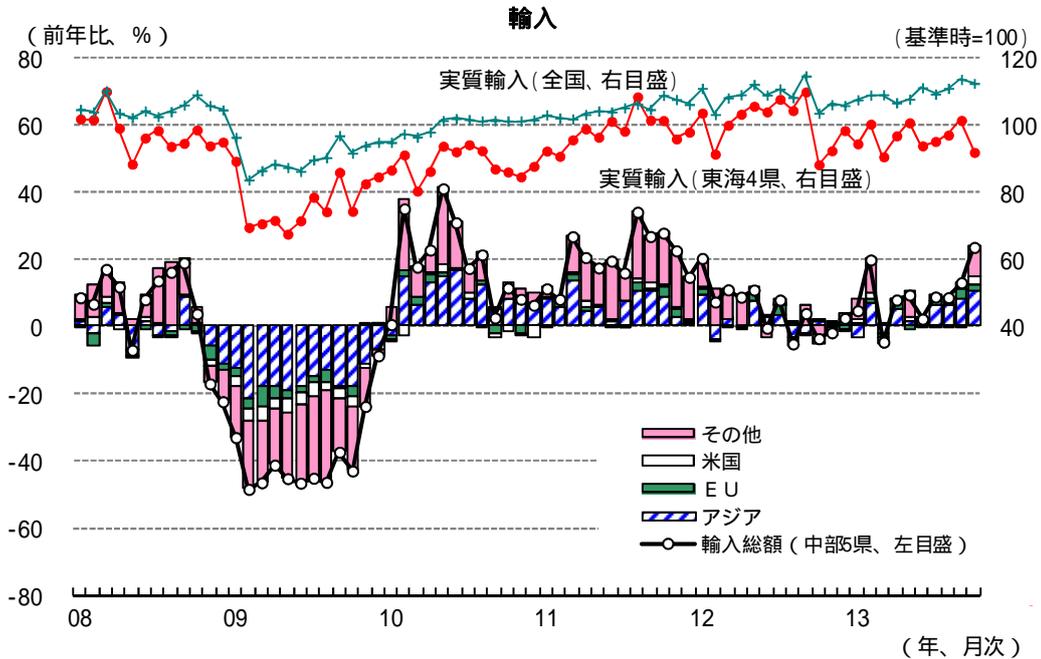
(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車(前年比+29.2%)や自動車部品(同+24.1%)の増加が寄与し全体をけん引したほか、鉄鋼(同+28.2%)も4ヶ月連続、工作機械(同+0.2%)は2ヶ月連続、電気機器(同+33.9%)は10ヶ月連続で増加した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

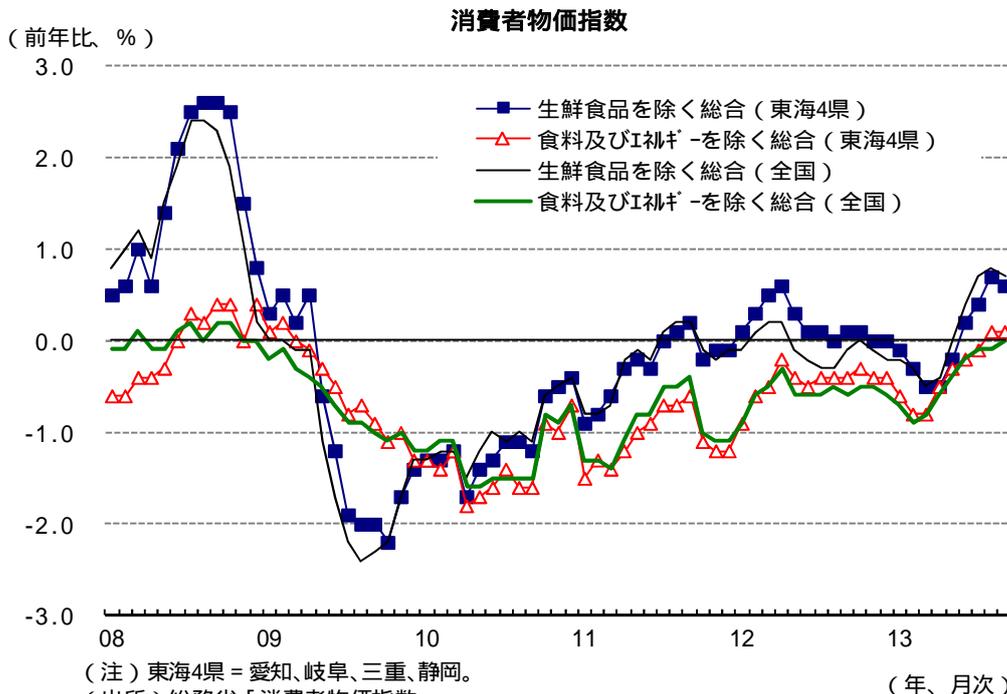
10月の実質輸入（季調済）は前月比 - 9.4%と4ヶ月ぶりに減少した。昨年10月の地球温暖化対策税の導入前の駆け込み輸入の反動により減少した後は、変動しながらも総じて横ばい圏の動きになっている。10月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 23.7%と7ヶ月連続で増加した。今後も為替相場や資源相場の影響はあるものの、実質輸入は横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



(注1) 実質輸入 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

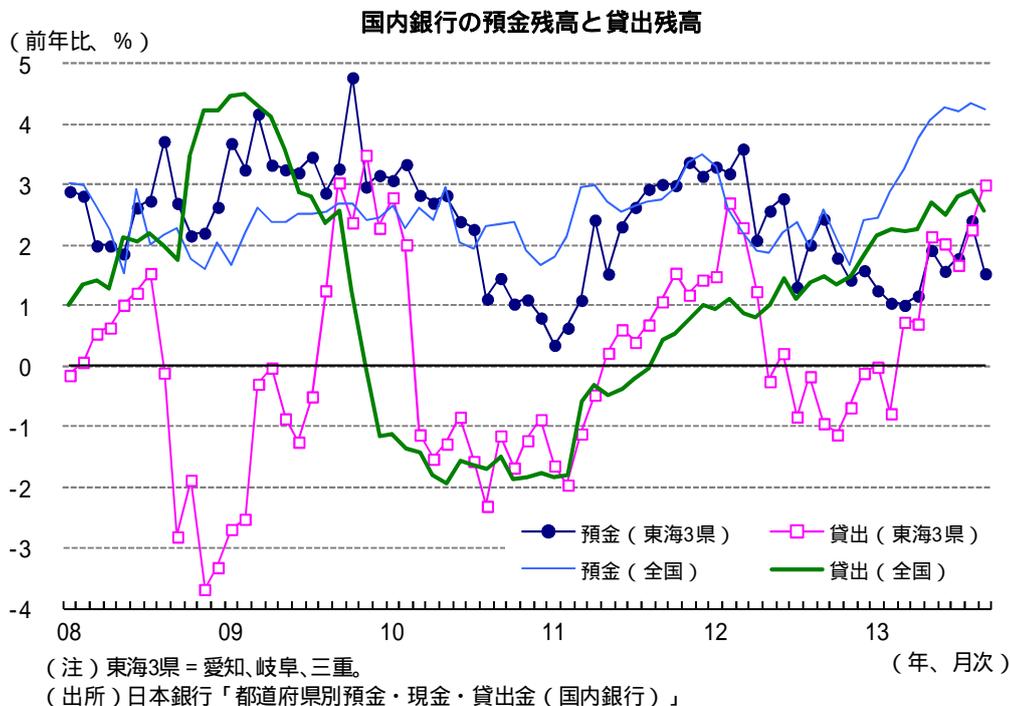
10. 物価 ~ 消費者物価は緩やかに上昇

9月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比 + 0.6%と4ヶ月連続でプラスとなった。電気・ガス料金やガソリン代の上昇が寄与し、家電製品は下落から上昇に転じた。食料・エネルギーを除く総合でも同 + 0.1%と2ヶ月連続のプラスとなった。今後は、輸入物価上昇に伴う価格転嫁に加え、10月以降も食品などの値上げが見込まれ、物価は緩やかな上昇が続くとみられる。



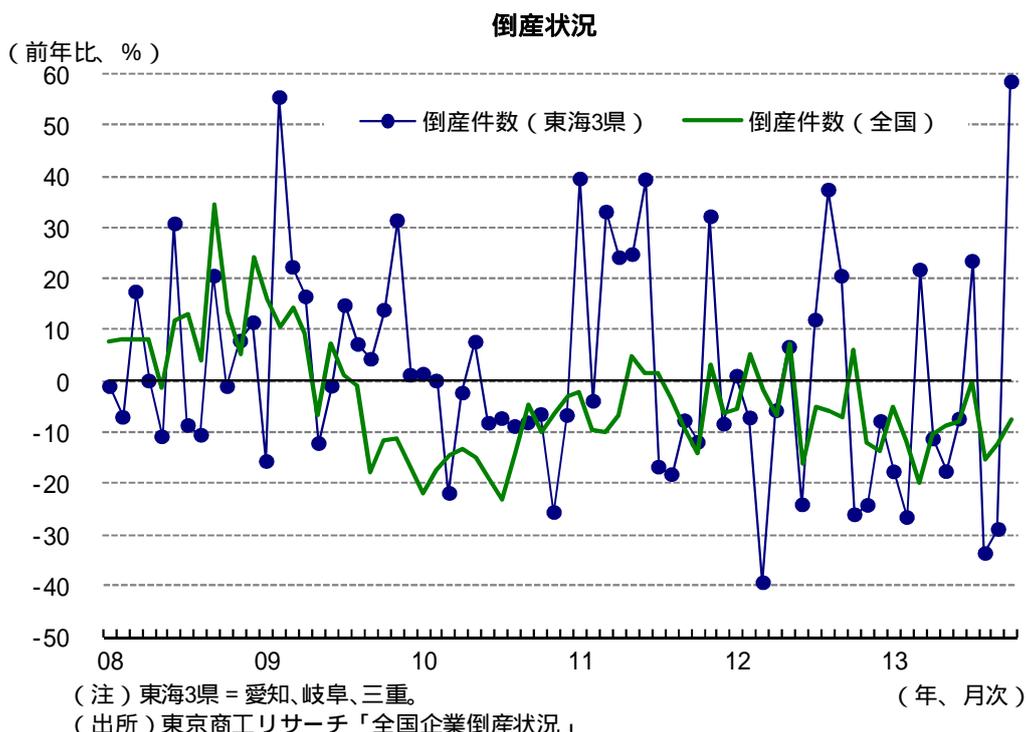
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

9月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、企業が手元資金を取り崩しているものの、個人預金が堅調に推移し、前年比+1.5%と増加した。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は同+3.0%と、自動車関連の運転資金需要に加え、一部企業でのM&A関連の大口貸出が寄与して7ヶ月連続で増加した。今後は1月からの自動車増産局面で資金需要が見込まれ、貸出残高の増加基調が続くだろう。



12. 倒産 ～倒産件数は増加、負債総額は減少

10月の東海3県の倒産件数は、前年比+58.5%の103件と2ヶ月ぶりに前年を上回った。愛知県（同+41.2%）、岐阜県（同+133.3%）、三重県（同+100.0%）と3県ともに増加した。小規模事業者の倒産が増加しており、業種別では建設、小売業の倒産が目立った。10月の東海3県の負債総額は、同-14.6%の102億円と2ヶ月ぶりに減少した。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	↗	☁	↗
	関西	↗	☁☔	↗		関西	→	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↗	輸入	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	↗		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁	↗		関西	↗	☁	↗
住宅投資	全国	↗	☀	→	生産	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁☀	→		東海	→	☁☀	→
	関西	↗	☁☀	↗		関西	→	☁☔	↗
設備投資	全国	↗	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	↗	☁	→
	関西	↘	☁☔	↗		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☀	↗	賃金	全国	→	☔	→
	東海	↗	☁	→		東海	↗	☁☔	↗
	関西	↗	☁	↗		関西	↘	☔	→



(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は9月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		10月のコメント	11月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに減少している	緩やかに減少している
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	増加ペースは緩やか	増加ペースは緩やか
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	緩やかな増加傾向にある	緩やかな増加傾向にある
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	減少している	減少している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調で推移	増加基調で推移
	関西	増加している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直しが一服、輸入は増加している
	東海	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに持ち直しの動き
10. 物価	全国	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金は増加、貸出は減少
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を 晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。